

日本学術振興会ワシントン研究連絡センター

NSB、STEM人材に関する報告書を発表（4月21日）

米国科学財団（National Science Foundation : NSF）の政策策定機関である米国科学審議会（National Science Board : NSB）は、米国における STEM 分野での人材に関する報告書「STEM 人材再考（Revisiting the STEM Workforce）」を発表した。本報告書は、STEM 分野での人材に関し、共通定義が存在しないことを強調しながら、STEM 分野において働く者には、学位非保有者から博士号保有者、そして、幅広い分野及び職種が含まれているとし、それぞれが何らかの形で米国経済に貢献しているとしている。また、一般的に「STEM 人材」と呼ばれる人々は「補助的人材」の複雑な集合体で、例えば「コンピュータ・情報科学者」という職業は 10 種類の異なる職業から成り立っているが、「STEM 人材」と広範且つ一般化したことにより、この複雑さが見逃されていることを指摘している。さらには、個人が STEM 分野でキャリアを築く上で必要となる STEM 関連の知識及び技能が全く整理されていないことも判明したとしている。同報告書は、STEM 分野の学位と職業を繋ぐパイプラインを重視するのではなく、STEM 分野で働く能力のある優秀な人材を養成することを提案している。

なお、本報告書は、<<http://www.nsf.gov/nsb/publications/2015/nsb201510.pdf>>からダウンロード可能。

National Science Foundation, Revisiting the STEM workforce

http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=134866&WT.mc_id=USNSF_51&WT.mc_ev=click